

青少年対策田園調布地区委員会主催 講演会

「伝わるって楽しい!」
アナウンサーが教える話し方のコツ!



が開催されました。

講師
西山喜久恵 アナウンサー

2022年12月4日、田園調布せらぎ館第一多目的室にて、青少年対策田園調布地区委員会によるアナウンサー講演会が開かれました。

講師は田園調布小学校卒業生の保護者でもある、西山喜久恵（にしやま きくえ）さん

編集委員 原 直子

適度な声量で話すことや、相手の話を良く聞き会話するなど、コミュニケーションの大切さを説かれていました。児童、生徒からも活発に質問が飛ぶなど、非常に素晴らしい講演会となりました。



参加者と講師で集合写真

まずはアナウンサーの仕事についてお話を伺ってから、全員で発声の練習。その後、童話「ごんぎつね」を題材に、児童と生徒3人1組ずつになり朗読劇に挑戦しました。皆さん、初めてとは思えないほど役になりきった朗読でした。

この朗読を通して、人に何かを伝えるためには

田園調布の郷土誌を作成中です。一般社団法人田園調布会

ご承知のように田園調布は渋澤栄一翁の肝煎りで職住分離、公園型の住宅地として開発されました。1924年12月田園調布駅の旧駅舎で最初の「住民協議会」後の「田園調布会」が開催され、2024年には100周年を迎えようとしております。

これに当たり当会では2000年に発行された「郷土誌田園調布」の続編を2024年に発行するべく企画、作成中です。

本会に当時から今日までの詳細かつ膨大な資料が残されている事に

驚くと共に、作成を担当するあとに住まう者の「責任」を痛感しております。

続編を作成するに当たり皆様からの色々な情報、記録、昔語り、写真等の田園調布についての思いも含めてお寄せください。それらを1つの文化として共有し、今後の田園調布の発展に役立てたいと思います。

お問合せ、ご意見につきましては(一社)田園調布会事務局(電話番号)(03)3721-2741までお寄せください。

編集委員 兒嶋 和歌子

数字で見る田園調布

2023/1/1 2022/1/1

世帯数:10,527 10,488(+39)
人口:21,501 21,503(-2)
男:9,913 9,953(-40)
女:11,588 11,550(+38)

※人口動態は年1回 4月号に掲載します。

子どもたちの短歌

田園調布中学校1年生がつくった短歌を紹介します。

自転車で 友人達と ホタより 遠出する 右へ左へ	手作りの 灯り 香り 豊か なよう キャ ンド ルを ス イ ブ	雨の日に 静かな家 で一人き り 私の時 間
宮田 悠大	千代 琴音	梅本 瑚白

編集後記

本号がお手元に届く頃には花粉症がやっと治まり、今年も少し早めに桜が咲きだしていると思います。

コロナ終息を願いつつ令和5年度が始まります。気持ちを新たにフレイル予防も兼ねてせらぎ公園・多摩川台公園・宝来公園などに足を運んでみませんか?

自然豊かな恵まれた地域の中で新しい発見や体験を、そして春を実感しましょう!

編集委員 染谷 優子



第130号

令和5年4月
April., 2023
季刊 Quarterly

でんえん

Mytown Den-en-chofu わがまち

発行 地域力推進
田園調布地区委員会
編集 てんえんわがまち編集委員会
事務局 田園調布特別出張所
大田区田園調布1-30-1
TEL 03-3721-4261
http://www.city.ota.tokyo.jp/

広報誌で自治会は変えられる? 田園調布二丁目自治会のチャレンジ

きっかけは子供の小学校の広報委員をした事だった。取材した原稿の文章を酷評されてしまったのだ。

「すごいショックでしたね。でもお陰で奮奮して編集の勉強を始めたんですよ。今では本当に良い経験だと思っています。」

笑いながら話されるのは現在二丁目自治会の虹クラブの会長をされて毎月「ニュース虹」を発行している木村典子さんだ。

木村さんはその後「文章教室」にも参加しタウン誌の編集に携わったのち二丁目自治会の広報誌の作成を引き継ぐようになる。

虹ニュースから虹ネットワークへ

「最初は自宅のプリンターを使ってモノクロ印刷で作っていました。でも皆さんなかなか読んで下さらない。でも自治会費を頂いている以上せめて活動報告はしたい。そんな中カラー版にしていろいろな町会活動の写真を載せてみてはと思いつきました。「ネット印刷」で検索してみたら、うちの自治会及びその関連への配布数で300部、ネット外注した方が自宅で印刷するよりずっと安く月々3,000円前後で可能とわかったのです。それでさっそく頼む事にしました。これには「地域の底力発展事業助成金」を使わせて頂いています。」

多世代が集える自治会へ

木村さんはその後、高齢者の見守りと会員の連携を深めて若い世代を呼び込む事を目的とした「虹ネットワーク」を立ち上げた。虹クラブでのシニアのためのイベントやホビー教室そして子供達を対象にしたハロ



田園調布二丁目自治会
木村典子さん

ウィンや夏休みお楽しみ会などの写真を載せると俄然紙面が華やかになり注目する人も増えてきた。

「二丁目自治会にはアートやクリエイティブな事に携わっている方も多く、その方々の助けをお借りして様々な催しやコンサートも行っています。これらの活動を通して、シニア世代と子育て世代を含む若い世代がもっと交流していければいいなど

思います。」

これからの抱負をお聞きすると「老いも若きも自治会は楽しいといえるものにしたいですね。うちの自治会にはモットーがあるんです。“向こう三軒両隣、お玄関までのお付き合い、お節介はしないが気に留める”この気持ちを踏まえて活動して行きたいです。そしてそれぞれの方の個性を生かせる場にする、そうするといろいろな人が集う生き生きとした自治会になるのではと思います。」

広報誌と言うとお知らせと報告が主体で何となく地味という感がなくも無いが、読者により親近感を持たせ参加して見ようと思わせる、それが「ニュース虹」の目指すところと言えそうだ。

最後に木村さんからのメッセージと近況報告

「他の町会の広報誌も増えてきてお互いに交流できたら良いですね。今、若い世代に向けてホームページも考え中です。」

編集委員 守井 準子



木村さんが手がける虹

田園調布小学校防災活動拠点 勉強会を開催

2022年12月11日(日)、田園調布特別出張所にて「過去から学び、未来へ備える」をテーマに、(一社)田園調布会・田園調布親和会・田園調布西町会・田園調布協和会(以下、4町会)からなる田園調布小学校防災活動拠点が、実際の体験を基にした防災情報、避難所生活での便利情報などの勉強会を講演会形式で開催し、計45名が参加しました。

■第一部

浸水被害の体験談と学んだこと

2019年10月12日の台風19号で実際に被災された方の体験談を映像を交えて伺いました。

1) 落合稔さん(田園調布西町会)

・避難所に指定されている田園調布小学校はすでに満員。近くの支援学校に行ったが浸水水位が1, 5mほどに達していたため2階に避難。避難所の場所やオープンの状況の情報が少なく、遅すぎる。

2) 大利一志さん(田園調布西町会)

・12日20時ごろから急速に周辺の浸水の水位が上昇し、13日早朝に帰宅すると自宅は1m以上の床上浸水、汚泥にまみれ、水の力で家の土台が浮き上がっていた。「なんで自分達がこんな目に！」動くことができなかった。

・建物は掃除後、表面はきれいになっても壁の内側は泥やカビだらけ。カビ、雑菌のために悪臭がしていた。
・ネットワークの大切さを痛感。

近隣の人達は自分達のことでは精一杯。友人、知人にFacebookやSNSで助けを求めた。手伝いに来ていただいて本当に助かった!

日頃の町会活動を通じた隣近所や他の地域とのコミュニケーションは有効。LINEのオープンチャットを活用すると良いのではないかと。最近近所に若い家族が増えてきたので子供さんの安全のためにもリスク管理は必要。



西町会さんの講演

■第二部

「災害から命を守るために」

日本赤十字社東京支部の方々より、地震発生時の身を守る方法、感染症流行下の避難所生活でのアドバイスと実技の講演です。

1) 地震が起きたらどうするか?

<避難と身を守る>

・人間、家屋が安全であれば緊急避難の必要なし。普段からの避難経路確保。頭の保護。

・火元への注意:ガスの元栓、ブレーカー、配線。

<火災発生時>

周囲への周知。初期消火(ただし天井に炎が達する前)近所に助けを求める。

<火災への備え>

耐火繊維のカーテン。消火器の常備。井戸の場所確認。地域の防火体制・役割分担決め。

2) 土砂災害

日頃からハザードマップで確認。地震発生時にはすぐに避難する。

3) 感染症下での避難所での集団生活の注意点

①ストレス②他者への配慮③運営者との協力

<感染対策>

・三密を避ける。マスク着用。タオル、食器は共用しない。床の感染リスクにも注意。ゴミの密封。トイレの蓋閉めは確実に。クツ、スリッパはビニール袋に。

<非常用品の確保>

- ・防災用品
- ・生活衛生用品
- ・日常生活の必需品や貴重品(リスト化、持てる重さにする)
- ・情報収集用品(スマートフォン、ラジオ、充電器など)
- ・ポータブルトイレの備蓄(1日の使用回数×7日分×人数分)
- ・飲料の備蓄(2, 5リットル×7日×人数分)

4) 防寒用ガウンの作り方実習

避難所の毛布を利用しました。簡単に作れて暖かい優れたものでした。



毛布で作るガウンの実技



会場全体の写真

■参加者アンケート

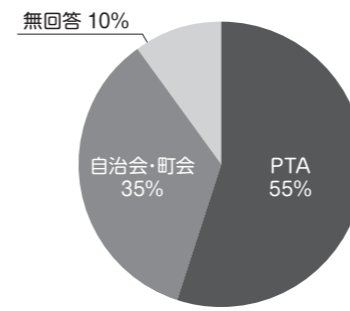
初めて講演会形式で開催しましたが、参加者からは「とても役に立った、また、参加したい。」「特に実体験を基にした浸水被害の講演が役に立った。」との好意的なアンケート結果をいただきました。アンケートの結果を踏まえ、今後も引き続き、住民全体が参加できる訓練や勉強会の提案と継続的な実施が必要だと思いました。

※アンケート結果を一部抜粋し、3面に掲載しています。

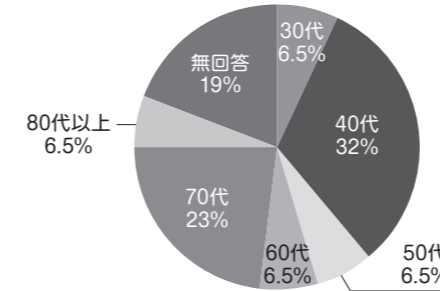
編集委員 三島 通利

田園調布小学校防災活動拠点勉強会 アンケート結果(回答者31名) ※一部抜粋

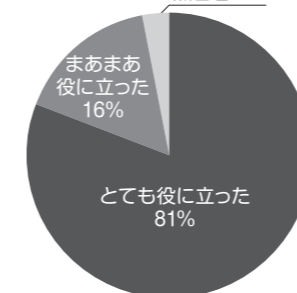
ご参加の方(所属)



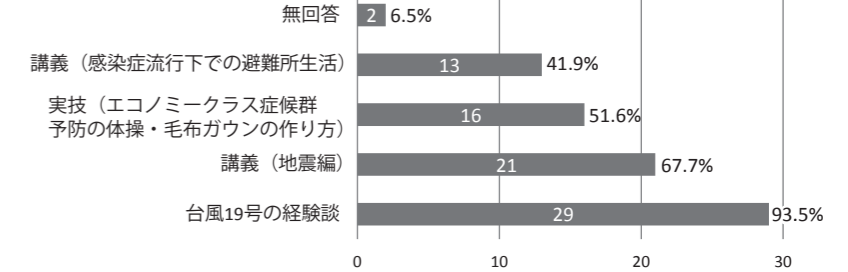
ご参加の方(年代)



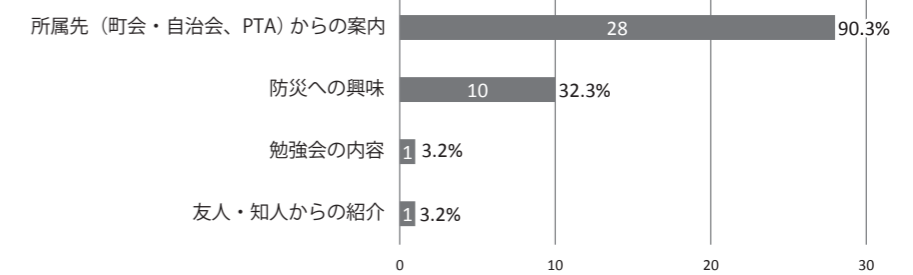
勉強会全体の感想



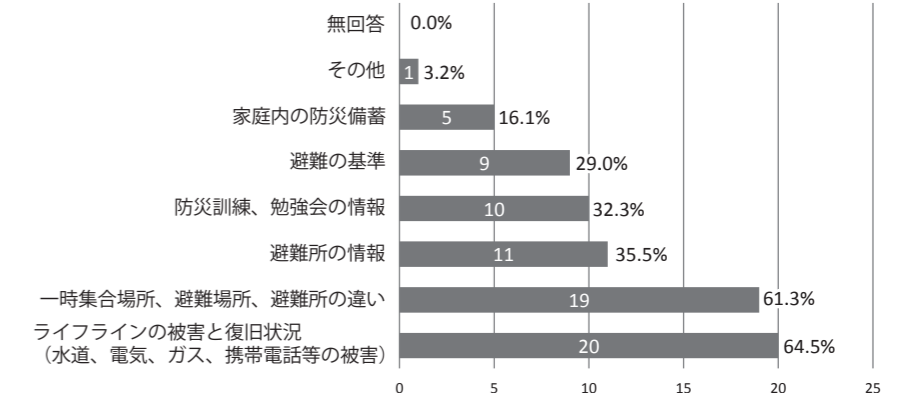
勉強会のうち、よかったもの



勉強会への参加理由



災害に対して知りたい情報



田園調布一丁目東自治会 神輿小屋建て替え工事着手

数年来の懸案事項でありました自治会の神輿小屋。50年以上は経っているであろう鉄骨づくりのわずか3坪の建坪ながら、自治会のシンボルとも言える伝統ある神輿を収める建物ですが、何年も前から、雨は漏るし、塗装はとくに剥げて見た目も悪く、早く建て替えねばと声が上がっていたものの、コロナでさらに延び延びになり、しかしさすがにもう限界でしょうとの声に押され、この度やっと神輿を上げました。十数年前に神輿を新調した際に、小屋も新調しようとの声が上がったものの

予算不足が原因で一時的にストップしましたが、1月18日の友引の日に浅間神社に地鎮祭をお願いし、念願の工事着手となりました。3月末には完成を見ることになると思いますが、建屋の面積も1.5倍の4.5坪9畳となり、今まで別々に収納していた餅つきの白や杵も一緒に収納でき、是非ともこの秋に予定している子供祭りや来年の初午祭、その後の催しなどにも活用できることを期待しながら、竣工を待ちわびています。

編集委員 稲垣 芳隆



地鎮祭



工事の様子